

# 学生サインタが贈り物

## 一宮障害児と親のXマス会

一宮市内の障害のある子どもと家族を対象にしたクリスマス会が二十二日、市尾西生涯学習センターであり、多彩な催しで三百三十人余りの参加者が一足早いクリスマスを堪能した。

市肢体不自由児者父母の会が毎年開いている。参加

者は東海三県を拠点に障害者支援に取り組む「当地戦隊「イエローリボンライダー」と踊りや記念撮影を楽しんだ。愛知淑徳大心理学部の学生十六人は人形劇を披露したほか、学生らがサインタクローズに扮して登場し、プレゼントを手渡すと、子どもたちは大喜びしていた。

会の渡部晃久会長（四〇）は「クリスマス会が外に出掛けたら、いろいろなことに挑戦したりするきっかけになり、社会の一翼を担ってほしい」と期待した。

（牧野良実）



イエローリボンライダー（上段右）らと一緒に踊りを楽しむ参加者たち。一宮市尾西生涯学習センターで

2019年12月23日（月）中日新聞 朝刊 10頁  
この記事は中日新聞社の承諾を得て転載しています。